

令和2年度学校自己評価システムシート (県立宮代高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの「よさ」を伸ばし、次代をたくましく生き抜くための学力と規範意識を身に付けた人間を育てる
--------	---

重点目標	1 生徒一人ひとりに見合った学習環境を提供し、基礎学力を確実に向上させ、自ら考え、判断し、表現する力につなげる 2 生徒一人ひとりの資質を把握し、個々に目標・目的を持たせ、規律ある学校生活を送らせる 3 積極的な広報活動を行うとともに、保護者・地域・関係諸機関との連携を強化する
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (月 日 現 在)			実 施 日	令 和 年 月 日
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
1	○生涯を通じて自ら学ぶことのできる社会人を育成していくことが求められている。そのために、生徒を積極的に授業に参加させ、できた・わかったにより学習意欲を高める指導が重要である。 ○生徒の大学進学や、就職などの個々の進路に合わせた的確な情報を提供し、進路実現を向上させる。	基礎学力定着に向けた学習習慣を身に付けさせるとともに、授業研究により指導力向上に取り組む。	①授業を通して予習・授業・復習の学習サイクルをつくる。 ②「未来を拓く『学び』プロジェクトとして、アクティブラーニングによる授業改善を推進し、授業研究に組織的に取り組む。 ③教育課程研究指定事業進路モデルプラン拠点校として、新教育課程を検討し編成する。	①学習習慣の定着が図られたか、生徒アンケートによる確認。 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた教員の授業改善への取組状況。 ③学校の目標と生徒の進路を見据えた教育課程が編成できたか。					
		進路実現に向けた計画的な取組。	①進路面談を通じた個に応じた進路情報の提供。 ②進路実力増進講習の活用。	①具体的な進路に向けた意識啓発。 ②参加生徒の学習状況。					
2	○規律ある生活を通して品格のある高校生活を送ることが求められている。昨年度欠席・遅刻・特別指導、中途退学等の大幅な減少が見られた。引き続き継続した指導が必要である。 ○生徒会や部活動での活動を通して、学校への帰属意識を高めるとともに、生徒の長所を向上させる取組を行うことが必要である。	生徒指導、教育相談担当を始め、各機関と連携を図り、生徒一人一人の特性や課題を共有する。	①規律ある高校生活が送れるよう、教員全体での保護者と連携した生徒指導の徹底。 ②各種検定、特技・興味ある講習会等の参加を促し、生涯を通じて学ぶ意欲の向上。 ③心のサポート体制の充実。	①登下校時の安全指導の充実と特別指導生徒の減少。 ②各種検定、特技・興味ある講習会等の受検と受講者の増加。 ③カウンセラー及び特別支援コーディネーターの活用。					
3	○学校が地域の中でどうあるべきかが求められている。今まで以上に地域資源の活用と連携を深めながら積極的な地域とのつながりを行っていく。また、これらが生徒の成長にどのように役立っているか検証することが必要である。 ○保護者・地域への定期的な情報発信により、保護者・地域からの理解・協力を得ることが求められている。	社会教育力(地域教育力)の力強い支援を受け、生涯にわたって学び続ける資質を養う生徒の育成。	①地域との情報共有を生かした学習環境の構築と生徒の個々の得意分野を生かした活動の場の提供。	①近隣小中学校等との連携による学習活動、地域住民との交流や地域貢献を通しての教員及び生徒の係わり具合。					
		保護者地域への迅速な情報発信。	①HPを活用した細やかな情報発信とメール配信システムを活用した家庭との連携強化。	①HPの充実を図り、本校の教育活動の魅力を発信、その取組が周知されたか。					